

薬剤部

業務内容

2022 年度の薬剤部の人員体制は本部定数 63.6 名に対し、4/1 現在で 59 名と 4 名の欠員はあるが、前年度（55 名）から 4 名の増員ができた。非薬剤師は事務職員 2 名で薬剤部全体として 61 名体制で業務を行っている。2020 年 5 月より新型コロナウイルス感染症対策として神奈川県立臨時の医療施設の運営を行い薬剤師も同施設にて業務を行っている。新型コロナウイルスワクチン接種に至っては、当院職員のみならず、地域の職域接種への貢献も行った。

■ 病棟業務（病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務）

2022 年 4 月時点で 20 病棟（新型コロナ対応のため 18 病棟稼働）に薬剤師を配置し病棟薬剤業務実施加算を算定している。薬剤管理指導件数は 2845 件/月と 2019 年度（3172 件/月）と比較し減少した。

2019 年度より新人薬剤師の教育において 1 年間のローテーションを行った後に配属病棟を決定することとし、内科系・外科系問わず幅広く業務を経験させることができた。

■ 調剤業務

当院における月平均の処方箋枚数は 162,936 枚（入院）、54,925 枚（外来）、入院注射処方箋は 206,214 枚であった。新型コロナウイルス感染症に対する発熱外来患者の増加により外来処方箋枚数は増加した。外来患者に対する院外処方箋発行率は約 75%と前年度同様であった。

また、地域がん診療連携拠点病院の取得およびオンコロジーセンターの移動に伴い、抗がん薬のレジメン管理業務ならびに調製件数も増加している。

■ 医薬品管理・医薬品情報管理業務

当院の医薬品購入費は年々増加しており、3 億 4300 万円（月平均）となっている。医薬品費抑制のため効率よくジェネリック・バイオシミラーの採用を行っている。ジェネリック医薬品の供給問題も 2020 年度と同様に継続しているが、数量ベースで 89%の確保がで

きている。医薬品費抑制のためにも採用医薬品を見直す予定である。

採用医薬品に対して有効性・安全性と経済性を総合的に評価する医薬品使用指針（フォーミュラリー）の作成を検討していきたいと考える。

■ 教育・研究

2021 年度に受け入れた薬学部実務実習生は 10 名（1 名コロナ対応により他院へ変更）、2022 年度は 11 名を予定している。コロナ禍において一時期オンライン実習も行ったが、おおむね通常の実習受け入れをすることができた。

2021 年度はコロナ禍により各種学会やグループ内研究会のオンライン化などもあり、通常と比べ学会発表数は減少したが、今後、研究活動を活性化していく必要がある。

また、薬剤部内の勉強会・症例検討会に関しても集合での勉強会からオンラインを利用して教育の機会を構築し、グループ内各種委員会においても勉強会を開催し、学習機会を全体として増やすことができている。

■ 離島・僻地病院への応援業務

2021 年度は離島・僻地病院へ毎月 2 名（2 施設）の応援者を派遣、更に人員不足施設（2 施設）に対して 0.6 名の応援を行った。2022 年度も同様の応援業務を予定している。

業務実績

2021 年業務量

薬剤管理指導件数 34,139 件／年（月平均 2,845 件）
外来処方箋枚数 54,925 枚／年（月平均 4,577 枚）
入院処方箋枚数 162,936 枚／年（月平均 13,578 枚）
注射薬払い出し本数 538,375 本／年（月平均 44,865 本）
外来化学療法加算 6,968 件／年（月平均 581 件）

薬剤部

2021 年学術業績

【学会発表】

1. 大村史, 宮田祐一, 藤村一軌, 桃井歩, 須賀明輝, 岩崎睦, 中村雅敏: がん化学療法中の患者における救急外来の受診状況調査. 日本臨床救急医学会, 2021, 5.
2. 小澤康久, 桃井歩, 錦祐輔, 渡邊文, 門谷靖裕, 下山ライ, 中村雅敏: がん化学療法時における HbA1c とグリコアルブミンの乖離の背景要因の探索, 第 14 回日本緩和医療薬学会年会, web 開催, 2021, 5.
3. 宮田祐一: ER 型救急システムにおける薬剤師の介入効果. 第 31 回日本医療薬学会年会, 2021, 10.
4. 岩崎睦: 救急医が併診依頼をした患者を対象とした救急外来での薬剤師の持参薬鑑別状況調査. 日本臨床救急医学会総会学術集会, 2021, 5.

展望/抱負

2022 年度は増築工事も終え 658 床を稼働させる準備ができ、10 月から 11 床の増床し 669 床となる予定である。稼働病棟数が 17 病棟から 20 病棟（10 月より 21 病棟）となるため、病棟薬剤業務実施加算算定に更なる増員が必要である。今後は 2024 年までに医師の働き方改革に対するタスクシフト/シェア対策、有給取得率の改善に向けた業務効率化を行う事で業務の受け皿を作っていく必要があると考えられる。さらなる拡大に向けて柔軟に対応できる体制作りと、先を見据えた人材確保にも力を入れていきたい。

その他の活動

【徳洲会研究会 講演・発表】

1. 中村雅敏: 湘南鎌倉総合病院の新しい取り組み～増築・臨時施設運営・薬剤師業務のタスクシフト～. 徳洲会薬剤部会全国会議, web 開催, 2021.11
2. 大村史: がん化学療法施行中に救急外来を受信した患者の報告. 徳洲会救急薬剤師研究会 第 1 回学術大会, 2021, 11.
3. 萬淳史: NF を伴う MDRP 菌血症に対する抗菌薬治療を通じて経験した様々な視点. 東日本臨床業務研究会, 2022, 2.

【講演・講義】

宮田祐一: ER 型救急システムにおける薬剤師の介入効果. 第 31 回日本医療薬学会年会, 2021, 10.